



## 岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは

### 「日本が飢える！世界食料危機の真実」

農地面積が終戦直後に約 600 万ヘクタールあったのが、農水省発表の令和 5 年産水稻の作付面積（子実用）は 134 万 4,000ha（前年産に比べ 1 万 1,000ha 減少）。うち主食用作付面積は 124 万 2,000ha（前年産に比べ 9,000ha 減少）と減少。

米の年間収穫量（子実用）は 716 万 5,000t（前年産に比べ 10 万 4,000t 減少）と見込まれる。このうち、主食用の収穫量は 661 万 t（前年産に比べ 9 万 1,000t 減少）と見込まれる、とある。

もしこのような状況で今、輸入食料が途絶えたら、人口から計算して 1600 万トンの米が必要ですから、国民の多くは餓死してしまいます。

ロシアのウクライナ侵攻で世界的な食料危機が叫ばれる中、農水省発表の食料自給率は、カロリーベースの食料自給率で 38%。前年豊作だった小麦が平年並みの単収へ減少（作付面積は増加）、魚介類の生産量が減少した一方で、原料の多くを輸入に頼る油脂類の消費減少等により、前年度と同じ。また、カロリーベースの食料国産率（飼料自給率を反映しない）についても、前年度と同じ 47%と。飼料自給率も前年度と同じ 26%とある。

輸入が途絶えるなどの不測の事態が生じた場合にも、国民が最低限度必要とする食料の供給を確保することを「食料安全保障」という。

食料安全保障について東京大学公共政策大学院で山下一仁氏が、世界の食料貿易の構造などを解説しつつ、主食の米を減らし続ける日本の食料政策の危うさと裏事情を講じている。

「FAO（国際連合食糧農業機関）の統計によると、米の生産量は中国もアメリカもインドも 60 年以降 3 倍以上、世界全体では 3.5 倍に増加していて、日本のように米の生産を減少させている国はまれです。小麦も世界全体で 3.4 倍に増加しているのに日本は大幅減。なぜこんなことになってしまったのか。理由は農業界がこれまで世界で食料危機が起こるたびに国産農産物が重要だとして国内農業振興に話をすり替え、既得権益を守ってきたからなのです」

山下一仁氏より

～～展示会出展のご案内～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

第 19 回こだわり食品フェア 2024

2024 年 2 月 14 日（水）～ 2 月 16 日（金）幕張メッセ

10:00～17:00（最終日は 16:00 まで）

小間番号： 11-120

次世代のプラントベースミート3種類、エンドウミート、大豆ミート、オートミールを提案しています